気になる生きもの

その③ オオタカ

里山の生態系の頂点に位置するオオタカ。全国に分 布し、埼玉県内でも複数の営巣地が確認されていま す。

近年、開発による里山の消失などにより生息環境が 悪化し、生息数が減ってしまいました。このため「種 の保存法」の「国内希少野生動植物種」に指定されて いますが、環境省は、来春にもオオタカをこの希少種 の指定から解除する方針を固めたとのこと。生息数が 回復したというのがその理由です。

これまで法により守ら れてきた生息地が指定解 除により開発の危機にさ らされ、再び生息数が 減ってしまわないか心配 です。今後も注意深く見 守っていく必要がありそ うです。 (益岡奈津樹)



その④ ヌマガエル

皆さんは、写真のよう なカエルを見たことがあ るでしょうか?これは、 本来静岡県以西の水田に 生息しているヌマガエル といい、埼玉県では2002 年の国の調査で最初に確 認されました。生息域が



徐々に広がって定着したのではなく、本来の生息地か ら遠く離れた場所で突然見られるようになったため、 人為的な影響で持ち込まれた国内外来種と考えられて います。ヌマガエルは高温耐性があるカエルで、オタ マジャクシは43℃の水温でも生きられると報告され ています。夏が暑い埼玉県は、このカエルにとって適 応しやすい環境が整っているため、既に生息している トウキョウダルマガエルなど在来種への影響が懸念さ れます。(茂木守)

会員のつぶやき

毎回メールでお知らせをいただいて、参加したいも のばかりです。皆様、幅広い研修等の機会を作られて いると感じています。いろいろ生きものネットに参加 したのは、多くの方とのネットワークを作ることが自 然保護活動に関わるものとして重要だと感じているか らです。自然保護活動をしてきた私にとっていい機会 ばかりです。当会の予定や荒川関係の会議と重なり、 気持ちばかりで参加できず残念です。

(菅間宏子)

先日、アライグマを見かけました。原市沼川のオオ フサモの駆除活動をしました。どちらも特定外来生物 です。今まであまり気に留めていなかった身近な環境 の変化を感じる機会が増えてきました。当団体に所属 してから得た知識の賜物です。オオフサモは、知らな ければただの水草、知ってしまえば外来生物。このよ うな小さな知識や活動の積み重ねが地域の環境保全に つながるのでしょう。皆さんにも少しでも御裾分けで きれば良いなと思っています。(米倉哲志)

催しのご案内

・2016年2月14日(日):第2回生きものフォーラム 場所 : 浦和コミュニティセンター

> 仲間に入りませんか ~会員を募集してます~

N P O法人いろいろ牛きものネット埼玉では一緒に 活動してくださる方を募集してます。

入会をご希望の方は下記ホームページからお申し込 みください。

https://sites.google.com/site/saitamaiinenet/

いろいろ生きもの通信 №2

- ■発行日 2015年12月1日
- ■発 行 NPO法人
 - いろいろ生きものネット埼玉
- さいたま市大宮区大門 ■事務局
 - 3-205ABCビル303
- ■e-mail iinenet.saitama@gmail.com

2015年12月

ろいろ生きもの通信

NPO法人 いろいろ生きものネット埼玉

北海道演習林のエゾシカ

4月より東京大学北海道演習林に転勤になりま した。秩父演習林在任中には、皆様には公私とも に大変お世話になりました。北海道演習林の事務 所の隣には、当会の脇坂代表の母校である山部小 学校があります。秩父演習林では、シカの対策に 悩まされておりましたが、北海道演習林もまた同 様です。北海道に来てシカについて秩父との違い に気がついたことがいくつかありますので、報告 しておきたいと思います。

北海道のシカは秩父に生息するホンシュウジカ とは別亜種のエゾシカになります。亜種レベルで 違うので、比較にはならないのかもしれません が、Bergmannの法則にのっとり、秩父のシカに 比べるとかなり大型です。きちんとした密度の データはないのですが、林道を走っていてシカに 会う頻度は、秩父よりも多いです。ところが下層 植生が衰退し土砂流亡、根の洗掘、樹木の根返り が発生している秩父と異なり、下層植生はそれほ ど荒れておらず林床のササもしっかりと残ってい ます。これは、ひとえに冬の積雪のおかげです。 雪の少ない秩父では、冬期間にシカの食害が進行 してスズタケの退行が進みます。また、ササに覆 われているうえ傾斜が緩いので、土砂流亡もほと んど問題になっていません。ただ、樹皮剥ぎは秩 父同様に深刻で、とくにオヒョウニレが集中的に 樹皮剥ぎで枯れています。トドマツには角研ぎ跡



残ってい ますが、 樹皮剥ぎ はそれほ ど起こり ません。 幼木では 枯れるトドマツがみ られますが、直径 10cm以上になると ほとんど枯死しない ようです。この点で も、モミ属の大木が たくさん枯れている 秩父と大きく異なる ところです。2008 年頃までに、北海道 演習林を中心とし て、森林と農地の境 に地方交付税交付金 で総延長100km以 上ある大規模なシカ 柵が作られました。 以前は、夏には農地



No.2

に出て行き作物を食べていたものが、シカ柵がで きてからは農地の作物を食べられなくなってしま いました。柵ができた翌年には、かなりの個体が 柵の周辺で死亡していたということです。柵が出 来たあとには、農作物被害が激減しただけではな く、林内の食害も減ったようです。

北海道と比べてわかったのは、どうしようもな いことですが、秩父では雪が少ないこと、急斜面 という自然条件が、シカの被害をより深刻なもの にしているということです。急斜面は、密度調整 を行う際にも狩猟の障害となります。北海道演習 林の経験から、シカの移動に制限をかけられる と、少しは状況を改善できるように思うのです が、なにか妙案はないものでしょうか?

(鎌田直人 東京大学北海道演習林長・教授、 いろいろ生きものネット埼玉理事)

オオフサモ駆除(第2段)@原市沼川

特定外来生物「オオフサモ」の2回目駆除を、 平成27年4月5日に実施しました。この日は、 前回残った群落と、線路近くに流れ寄っていたオ オフサモを引き上げました。新たにエンジンポン プを導入したので、根についた泥を洗い流すこと ができました。採取後は、前回同様に土手の防草 シートの上に広げました。

オオフサモ駆除の課題の一つは、採取後の処分です。1月に駆除したものは泥が多かったため、まだ完全に乾燥、枯死しておらず、焼却場での処分は無理でした。そこで、堆肥にするのが最も合理的な処分法と考え、ビニールシートで覆って堆肥化にとトライしていましたが、8月に調べたところ、1月と4月に採った土手のオオフサモは、完全に枯死または腐敗し土になっていました。関東地方環境事務所に尋ねたところ、「オオフサモの器官は根と茎とされている。日本には雌株しか入っておらず、種子は付けない栄養繁殖のみ。完全に乾燥、枯死していれば、鋤込みや存置していい。外来生物法違反にならない」とのこと。やっと処分のめどがたちました。

川のオオフサモの繁茂状況をメンバーがモニタリングしていましたが、8月6日には「増水している水面にしっかり顔を出している。コウホネも咲いている。」、8月19日には「抜いた後の相当部分にヒシが生えていた。上が空くのを待って



いたのかも。とは言え、オオフサモは健在。」また、原市沼を愛する会が昨年除去した上流部のオオフサモはほとんどなくなっていました。

これまでにわかったことは、①とにかく手強い!ながら、駆除活動は無駄ではなさそう。②処分は、泥を洗浄し網を被せておけば早々に乾燥、枯死する。泥と一体でもビニールシートで覆うと暑さで死滅する、ということです。

10月12日に水の落ちた原市沼川で3回目の除去に臨みました。橋直下の大群落は縮小しましたが、いずれにもオオフサモが萌え出ていました。実働2時間余で右岸の3群落を除去しました。こちらの技術も上がり多少は楽しむ余裕も。少しは成果が感じられます。これからもオオフサモの根っこに負けないように根気強く取り組んでいくしかなさそうです。つづく。(岡安玲子)

神代植物園・植物多様性センター見学 2015年7月20日

神代植物園は、昭和36年にこれまで街路樹の圃場だった面積47haの敷地を整備した公園です。園内は、ばら園・つつじ園など30ブロックに分けており、植物の知識を習得できるように整備されています。「ショクダイオオコンニャク」も展示されていました。当日はつぼみの状態でしたが、翌21日の夜に開花したとの報道がありました。強烈な臭いであったとのことです。

園の北側に平成24年に整備された「植物多様性センター」も見学しました。面積2.6ha中に展示室と学習園があり、学習園は「武蔵野ゾーン」「奥多摩ゾーン」「伊豆諸島ゾーン」を更に3エリアに分け計9エリアにとして、植生を再現しています。木本はもとより、草本にも名板が付けられて

おり、来園者の学習に、配慮が感じられました。

見学後、隣接する深大寺の境内で 名物の蕎麦を美味 しくいただきました。

都心から1時間 足らずの場所で、 いろいろな植物に 出会えた1日でし た。(玉熊英一)



夏の見学会 森ケ崎水再生センターのコアジサシ 2015年7月25日

コアジサシ(英名 Little Tern 絶滅危惧 II 類)は、繁殖のためオーストラリア等から日本に渡って来るアジサシの仲間です。全身が白く、翼をはためかす特徴のある飛び方は、一度見れば忘れることはありません。海岸や河原等で繁殖しますが、近年、護岸工事や 4 W D の乗り入れにより、営巣地が減少しています。県内では利根川流域以外に、大規模造成地や砂利の敷かれた駐車場等で繁殖することがあります。小石を集めた簡単な巣を作り地面に直接卵を産み落とします。

コアジサシは集団で営巣しており、カラスなどの天敵が現れると一斉に飛び上り、「キリッキ



リッ」と鳴きな がら威嚇して追 い払います。 (人や犬に対し ても同様で す。)

2001年に大田区

の森ケ崎水再 再生センター 屋上でがいまった かけった がけった で、の保とした



「特定非営利活動法人リトルターンプロジェクト」が設立され、東京都の協力を得てセンター屋上を本格的に営巣地として整備し始めました。

夏の見学会でここを訪れました。屋上にはコアジサシの好みを調べる目的でいろいろな素材の砂利が敷かれており、コアジサシを呼び込むためのデコイも設置されていました。これまでの経験から営巣に最適な条件がわかってきたようです。いろいろネットでは、県内でもこのような営巣地ができないか検討しています。なお、2002年にここで足環をつけたものがニュージーランドで見つかっているとのことでした。(小峯昇)

筑波実験植物園水草展見学 2015年8月22日

つくばの国立科 学博物館植物園の 水草展に行ってきました。

まずは水生植物 の水槽展示コー ナー。子供の頃よ



く熱帯魚を見に行きましたが、今回のメインは水生 植物。多種多様な種類の水生植物を芸術的に展示し ていることにまず感動。

その後、植物園本体へ。限られた時間なのに、越谷ホシクサがあった! 食べられる実の植物があった! 触れる水草があった! などと盛り上がり、なかなか次に進めません。また各展示コーナーには大学生のアルバイトさんが説明してくれるのに加え、その場で牧野先生が懇切丁寧な解説をしてくださり、大変勉強になりました。大人になってからの植物園がこんなに楽しいとは。最後はスタンプラリー(駆け足だったのに全部制覇)の景品で越谷ホシクサの絵はがきをもらい大満足の1日でした。(田原弥牛)

千葉県野田市コウノトリの里視察 2015年9月20日

会員5名で千葉県野田市コウノトリの里に行ってきました。現在この施設では、多摩動物公園から譲渡された1ペアの子供のコウノトリされています。思ったもは、アのナきな鳥で、羽を伸ばすと2mにもなっています。でに、この





施設からコウノトリが試験放鳥されており、その位置情報が個体に取り付けられたGPSにより常に確認されていました。コウノトリは、毎日500g以上の小動物を餌として食べるため、餌を求めていろいろな場所へ飛んで行くようです。コウノトリを野生復帰させるためには、餌となる小動物が棲める自然環境を地域社会全体で作り、それを守っていくことが大切であると感じました。(三輪 誠)